



介護の現場から _____ 小規模通所介護の事業所をたずねて

八丈町はこの春、第6期の介護保険事業計画をまとめ、3月議会で発表しました。また、国は昨秋、事業所に支払う介護報酬を全体として2.27%引き下げる方針を示しました。八丈島の介護の現場では、これをどのように受けとめているのか、影響はないのかなどを知りたいと思いました。介護保険には、施設介護、通所介護、訪問介護と様々なサービスがありますが、今回はデイサービスを実施している介護事業所をたずねました。

【まどか】 小規模デイホームとして最も古い事業所です。スタッフは8人、利用登録者は33人で、介護度が1～5の方と要支援の方もいて、1日の利用者は約10人です。年末年始の6日間をのぞいて通年営業です。月に1回、「まどか新聞」を出し、イベントの情報や様々なアドバイスを発信していました。介護度が異なる方が混じっていることで、軽度の方が重い方を世話する、お互い刺激しあうなどプラスの面も多いとのことでした。スタッフに対しては就業環境を改善するなど企業努力を進めていて、経営者としての自負も感じられました。



【八丈げんき】 スタッフは非常勤を含めて8人。利用登録者は14人で1日の利用者は5～6人。1日の始まりは手洗い、うがいをしてお茶。つぎに体温、血圧などをチェックして、リハビリ体操、入浴、ゲーム、イージーウォークなどそれぞれのメニューを決めます。小規模施設だからこそできる、きめ細かな対応、融通性を感じました。ガラス戸で仕切られた部屋に、陽だまりでくつろぐ数匹のネコがいて、利用者はネコたちに会うのを楽しみにしているようでした。

【すみれ】 スタッフは8人、利用登録者は18人。1日の利用者は7～8人です。昨年4月に開所した認知症対応の施設で、8時から5時まで年中無休の営業ですが（スタッフは3交代制）、早朝や延長にも随時対応しています。認知症の利用者は、家族構成や家族の仕事の事情でトラブルが起きやすく、こうした情報をキャッチし、ケアマネージャーと相談しながら対処しているそうです。朝の送り出しや夕方の見守りなどにも介護保険の適用ができれば、と話していました。



【花】 八丈で初めての認知症対応事業所として4年前に開設されました。スタッフは12人、登録16人です。1日の利用者は9～10人で、みんなと作業をしたい人や、一人でいたい人などそれぞれに合わせてメニューを考えています。認知症に限らず、同居する家族の介護力が低下していくことが、今後の課題としてあるとのこと。また、在宅介護を維持していくためには医療との連携が欠かせないので、実現できるよう町に求めていきたいとも話していました。ここにも外飼いのネコがいて、対話を楽しむ利用者の姿がみられました。

前ページより続く

【あそんでおじゃれ】 昨年開設されたリハビリ型のデイサービスです。リハビリ専門の機器とプログラムを利用して身体の機能回復を目指す施設です。今回は取材をしていませんが、利用者は増えているようです。

共通の課題

今回、定員が10人以下の通所介護の事業所を訪ねて明らかになったのは、どの事業所も「国の方針で介護報酬が引き下げられたとはいえ、サービスを低下させることはできない」と考えているということでした。苦しい経営のなかでそれぞれの事業所は日々努力していました。報酬の引き下げは、全国的に社会福祉法人の内部留保があるとの認識から行われたもので、株式会社やNPO法人などで経営している小さな施設についても適用されていることが、各事業所の経営を圧迫している理由の一つと思われます。また、利用者がやや減ってきているという声も聞かれましたが、介護度が進んで特別養護老人ホームに入ったことや利用者が亡くなることが原因のようです。利用者がこれから先も施設に入らず在宅で暮らしていくためには医療との連携が欠かせないので、医師や看護師との話し合いも進めてほしいと要望する声が各事業所からあがっていました。

選択肢が多いことの利点

介護保険のもとで、デイサービスを積極的に利用することで、介護が必要な方が地域の中で人との交流を持ちながら元気で暮らしていけるのだと思います。八丈島にはこのほか養和会がデイサービスを提供しています。同じ人口規模で、これだけの事業所がある自治体はほかにありません。個人の性格や介護度にあったところを選べるのは、本当に恵まれていると思いました。事業所がそれぞれの個性を活かして今後も存続できるよう、町が様々なかたちで支援していくべきだと思います。事業所のスタッフの雇用が確保され仕事へのやりがいにつながり、結果として、入所施設の待機者が島外へ出ていくことなく、終生住み慣れた土地で過ごせる環境を整えることになるからです。

町営バスをめぐる議論も

バス会計は毎年赤字経営を強いられていますが、今議会では多くの議員から具体的提案と要望が出されました。



○ 高校生の通学バス料金は高すぎる。乗っていなくても走らせているのだから半額程度に下げるべきだ。

町：現在坂上から定期券で通学しているのは3名程度。持ち帰って検討する。

○ 中学生の部活でのバス移動に補助を。

町：遠征前と夏休みの部活については町が負担している。さらに拡大できるかどうかは検討したい。

○ コミュニティーバスは小型になったが15席で座席数が少ない。

町：温泉行きのバスは高齢者がよく利用するので、今年度購入するバスは中型にする。

○ 路線バスの利用が少ないので、管理職、職員、議員も時々利用する努力を。

町：考え方は大切だと思う。

○ 観光客誘致への努力も。

町：去年は関西、東北、福岡まで誘致に行った。



2015年3月議会 一般質問



1. 第6期介護保険事業計画・高齢者福祉計画で何がどのように変わるのか

第6期の3カ年にわたる介護保険事業の概要が明らかになった。町の高齢化が進み、介護保険を利用する人が増え、その結果保険料は上がった。被保険者の公平な負担と質の高い福祉の実現をめざして、町が進むべき方向は。

(1) 保険料の値上げについて、被保険者に理解を得るための対策は。

町 まず広報で周知し、高齢者が集まる場所に出向いて理解をお願いする。

再質問 婦人会やサロンなどにも出向いてほしい。初めて年金を支給される方への封書でのていねいな説明も必要と考える。

町 被保険者に理解してもらうことは不可欠なので、できるだけ努力する

(2) この計画が実施されることで、各事業所にどのような影響があるか。また、介護報酬が引き下げられることで事業所にどのような影響があるか。

町 今後の動向を見ないと影響の程度はわからない。訪問介護や通所介護が地域支援事業に移行するので、多様なサービスを提供できると考える。また報酬引き下げによりサービスが変わらないよう、各事業者は努力するとしている。



(3) 第5期事業で実現できたもの、実現できなかったものはなにか。

町 認知症についてはサポート講座を26回開き理解を広めた。生活支援サービスについてはまだできていない。

再質問 養護老人ホームの扱いやサービス付き高齢者住宅の検討を載せていたが今回は全く触れていない。地域包括ケアシステムについてもどこまで進んでどれができていないのかわからない。町のビジョンが見えない。事業主体は町であり、何をどこまで実現するのかを示す責任があると思うが。

町 関係各機関との連携が不十分だったため、進んでいなかった。

2. クリーンセンターの建て替えにあたり、ゴミ処理方法の見直しを

クリーンセンターの新築計画が始まったが、これまでどおりの発想でいいのか疑問に思う。町は、大胆な発想の転換をおこない、少子高齢化と人口減少が進む町の規模に見合った無駄のないゴミ処理方法を考えるべきだと思う。

(1) 経費の削減努力をしたうえで、住民ひとりひとりが応分の負担をしながら、ゴミ処理費用を抑制する方法を考えるべきではないか。

町 中之郷の埋め立て処分場の伐採木の資源化、事業系ゴミの有料化の適正化を進めるが、家庭ゴミの有料化は難しいと考えている。

再質問 家庭ゴミよりも、まずは粗大ゴミや事業系ゴミの応分の負担が必要だ。

町 ゴミ処理問題協議会で審議して決めていきたい。

(2) 行政視察で新しい処理方法を視察したが、町としての感想と評価は。

町 町職員と同処理施設を視察したが、生ゴミやビニールなどをコンパクトに処理できる注目すべき技術ではあるが、水分調整や臭気対策が必要とされる。他の導入自治体の動向を見ながら環境整備公社と相談して検討していきたい。



3月議会 私の一般質疑の発言から

●臨時福祉給付金 消費税が8%に上がった際の、対象者への給付状況は。

町 申請する必要があったので、初めはなかなか進まなかったが、期間を延長し最終的には74%の方が受給し、一定の役割は果たせたと考えている。

●異物の混入 ご飯とみそ汁と牛乳だけの給食になった日があったと聞くと、防災目的で保存している缶詰やパックの惣菜を代用して対処できたのでは。

町 コロケに器械のボルトが混入した。対処の方法は、今後検討したい。

●地熱館入館料 町長は、前議会で無料にする方向で考えていたが。

町 周知ができていなかったのと、フリージアまつりが年度を越えるので、今年度は実施しなかったが、3年目を目途に見直しを考えたい。

●定住促進策・空き家の調査 人口流出の歯止めと同様に、外から人を呼び出す対策が重要だ。ハローワーク的な求人情報対策と、子育て支援の充実などを外へ発信すべきだ。また、空き家の調査を今年度中にすると言っていたが…。

町 庁舎を横断するチームで広報誌の見直しなど対策を練っているところだ。空き家の調査は、公共施設は調査しているが、個人住宅など全体についてはまだできていない。

●クリーンセンターの修理 毎年修理をしているが今年はどこをなおすのか。

町 平成35年の新施設供用の前に、それまで持たせるための修理で、炉内の壁の張り替えと全体の修理とで7000万円かかる。

●ゴミ処理費用 人口は減っているのに、ゴミの処理費用は上がっていく。

処理の方法と費用負担を改善する考えはないか。

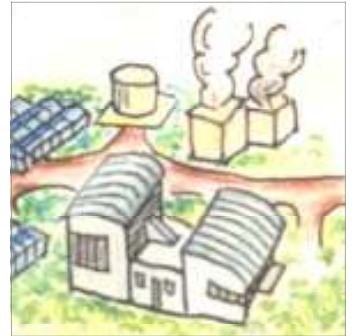
町 すべてのゴミをリサイクルするには無理がある。島の規模や輸送コストを考え、見直しをしていくつもりだ。

●路線バス 今回、町は路線バスで名所・旧跡をめぐる観光ルートを考えているとしていたが、進めてほしい。また、今夏に間に合わせられるのか。

町 路線バスによる観光ルートをつくって増収を狙いたい、今検討中だ。なるべく早く実現させたいと考えている。

●プレミアム商品券 10000円の商品券で11000円の買い物ができるというが、他の自治体では2~3割のプレミアムがついている。これで景気浮揚が図れるのか疑問だ。また、実施には事務費用がけっこうかかると思うが。

町 多くの人に使ってもらい、高い経済効果を上げたいので、これでいく。これにかかる事務費用として、242万円を計上している。



編集後記

5月の町の広報に八丈町歌のCDが入っていました。産業祭の初日に終日町歌が流されたので、みなさんも何となく耳に残ったのではないのでしょうか。



先日檜立の團伊玖磨さんのアトリエで行われた「花のまち音楽会」でも演奏されました。

町民によってつくられたこの歌が、みんなに愛される歌になってほしいと思います。